

一般研究集会（課題番号：2020K-02）

集会名：2020 年度自然災害に関するオープンフォーラム

「平成 28 年熊本地震からの復興～これまでの取り組みと今後の課題～」

主催者名：日本自然災害学会、京都大学防災研究所、熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター

研究代表者：柿本竜治

所属機関名：熊本大学大学院先端科学研究部

所内担当者名：米山望

開催日：令和 3 年 3 月 21 日

開催場所：国立大学法人熊本大学南キャンパス 工学部百周年記念館 及びオンラインハイブリッド（zoom, YouTube Live）

参加者数：80 名（所外 65 名，所内 15 名）

- ・大学院生の参加状況：4 名（修士 3 名，博士 1 名）（内数）
- ・大学院生の参加形態【運営補助】

研究及び教育への波及効果について

本フォーラムはオンラインでの開催であったため、熊本県以外の地域からも多くの参加があった。このことから、熊本地震で得た教訓が他地域へも共有され、その後各地での取り組みへの波及が期待される。また、参加者には大学研究者だけではなく、メディアや建設業、行政、地域住民など多分野の方々が参加し、考え、今後の課題を共有する機会となった。

研究集会報告

(1) 目的

平成 28 年熊本地震からまもなく 5 年を迎え、新阿蘇大橋が開通するなど公共工事による復興が進んでいる報道がある一方で、人々の復興には濃淡が見られることは熊本大学によるアンケート調査でも明らかになっている。熊本は昨年球磨川流域で発生した「令和 2 年 7 月豪雨」や阿蘇で土砂災害が発生した「平成 24 年九州北部豪雨」も起きている。次々に発生する災害の経験・教訓をどのように伝え、次の備えにつなげるのか。構造物やインフラなどハード的な視点とまちづくりや伝承、教育などのソフト的な視点の他、行政、組織、地域、住民、メディアと多層的な視点での議論や取り組みが必要となる。

本フォーラムでは行政、大学、メディアの様々な視点で、5 年を振り返り、立ち位置・方向性を改めて確認し、これから取り組むべき課題について考える機会とした。

(2) 成果のまとめ

オープンフォーラムは初めに登壇者からの話題提供があり、その後パネルディスカッションが行われた。

話題提供ではまず、熊本県土木部上野晋也部長から「平成 28 年熊本地震からの創造的復興」と題し、熊本県が熊本地震後に掲げた「創造的復興に向けた重点 10 項目」のうち、主に「すまいの再建」、「阿蘇へのアクセスルートの回復」、「益城町の復興まちづくり」、「八代港のクルーズ拠点の整備」の 4 項目について報告があった。現在、全災害公営住宅や新阿蘇大橋、八代港の「くまモンポート」などが完成し、益城町の 4 車線化も約 3 分の 1 完了しているとのことであった。

次に、熊本県立大学柴田祐教授から「復興とまちづくり」と題し、地区単位の復興まちづくりに焦点を当てた取り組みが紹介された。これから熊本地震からハード整備が完了し、その後の 5 年間に差し掛かる上で「人口減少を前提としたまちづくり」や「人口を指標としないまちづくり（暮らしや地域の持続性、身の丈にあったまちづくり）」を行っていくべきであるとの話があった。

熊本日日新聞編集局編集委員室小多崇編集委員兼論説委員からは「社会につなぐ、時代をつなぐ」と題し、取材を通じて得たデータやストーリーから高齢者や障がい者の厳しい避難の現状が紹介された。災害が多発する中で日本社会の構造を理解し、被害の実態を冷静に見ることの必要性を訴えた。また、平成 28 年熊本地震前は明治 22 年熊本地震の認知度が低かったこ

となどから、「継承」の重要性とともに、災害対応カードゲーム「クロスロードゲーム」や被災地のスタディツアーなどの現在の各地での取組みが紹介された。

最後に、熊本大学山尾敏孝名誉教授から「熊本大学における伝承の取組み」として、熊本大学が取り組んでいるデジタルアーカイブシステム「ひのくに災史録」の構築や活用について紹介があった。デジタルアーカイブ室設置後2年間は「ひのくに災史録」の構築が主な活動であったが、現在は活用について考える「TERADA」というチームを結成し、「①データと人をつなぐ」「②できたことできなかったことをつなぐ」「③現場と教育をつなぐ」という活動方針のもと、地震を経験していない学生たちへ震災を伝える方法などを検討している。

パネルディスカッションでは主に「合意形成」や「公共事業とまちづくり」、「継承と教訓」、「デジタルアーカイブの活用」が話題に上がり、「場を作る人（ファシリテーター）」の考え方や「変化の許容」の重要性などについて話し合われた。

(3) プログラム

- 10:00-10:05 挨拶 日本自然災害学会会長・目黒公郎
挨拶 実行委員長・柿本竜治
- 10:05-10:10 趣旨説明
- 10:10-11:30 講演
- 10:10-10:30 上野晋也「平成28年熊本地震からの復興とこれから」
 - 10:30-10:50 柴田 祐「復興とまちづくり」
 - 10:50-11:10 小多 崇「社会につなぐ、時代をつなぐ」
 - 11:10-11:30 山尾敏孝「熊本大学における伝承の取組み」
- 11:30-11:55 総合討論
- 11:55-12:00 閉会の挨拶

(4) 研究成果の公表

自然災害学会の学会誌「自然災害科学」において、報告として本研究成果を公表する予定である。